

弓道いばらき

令和元年7月 第41号

発行所 取手市駒場1-22-31
茨城県弓道連盟
理事長 大峰 芳樹
電話 (0297-72-3245)
<http://ibakyuren.com>

令和元年度に向けて



茨城県弓道連盟 会長 久保田 清

平成が終わり、5月1日から新しい元号に移行し令和の時代がスタートしました。5月11日の理事会、25日の代議員会において再選いただき、会長を任期終了まで努める事になりました。もとより微力ではありますが、会員の皆様方のご協力をいただきながら努めてまいります。

令和の新時代の幕開けの、その節目の記念すべき年に、45年の時を経て、いきいき茨城ゆめ国体が開催されます。会員の皆様方には、5年前から、予算、運営、施設等の様々な分野に多大なご協力をいただいています。茨城県弓道連盟が一つになり、難関な事業の成功のために取り組みではありませんか。また、武道館も改修、新設、塗装等の工事が入り、利用に関してご不便をおかけしますが何卒ご協力をいただき、全員で乗り切ろうと思えます。

昨年年度を振り返って見ますと、関東、全国規模の事業が、第65回全日本勤労者弓道選手権を始め、国体関東大会ブロック大会、東日本JRW弓道大会、関東中学弓道大会、関東北地区指導者講習会、臨時関東中央審査と6回も茨城県武道館で実施され、会員の皆様方にご協力いただきました。おかげさまで無事に勤めを果たすことができました。大会成績を見ると、関東ブロック大会では、少年男子総合3位、成年男子総合2位、成年女子総合1位で通過し、福井での本国体に出場し、成年男子遠的1位、少年男子近的1位と成績を残しました。全日本関東予選男子の部において3名(辻、米山、岩田)も通過し本戦に出場、女子通過者(石井)を含めると茨城から6名の選手が出

場しました。本戦では辻選手が予選を通過し健闘するも入賞にはいたりませんでした。技術的には通用するまでにはなっているが、決勝で自分の技量を充分発揮する、精神力の修練が第一課題と思われました。第二回都道府県大会では目標とした予選通過を果たし、5位入賞と健闘いたしました。また関東選手権大会5位入賞(高橋輝子)、明治神宮全国奉納大会称号者の部4位(中嶋鉄郎)、8位(荻野淑江)、全自衛隊大会団体1位(岡田智光、大西伸明、大竹泉全)、個人1位(岡田智光)、関東教職員大会団体男子3位(宮本和明、青柳優、信戸修二)、団体女子1位(木村亜紀子、相原利恵、大金喜代子)と活躍が見られました。

高体連では、全国高等学校弓道大会女子団体5位(清真学園)、関東個人選手権大会男子2位(飯塚春巳下妻二高)、女子7位(紙田梨華子 清真学園)、中体連では、関東弓道大会男子団体3位(内原)、個人男子7位(岩木海大 内原)、8位、瀬尾優希 太田、小林あすか 阿見)と健闘。審査を見てみると中央審査では教士に2名の合格者があり、県連で現在最も待ち望む難関審査合格者であり、喜ばしい事であり、錬士には11名の合格者、若手も多く含まれて県連の将来が託せる称号者に育ってほしいと願います。六段に3名、五段に16名と高段者が新しく誕生しました。

講習会も数多く実施されましたが、取り組み方、受け取り方が講師側から見るとマンネリ化し、真剣さの伝わり方が足りない気がしますが、何か講習内容等の見直しを図るよう指導部と協議して行きます。今年度は中央からの講習会が中止になっており、各県連では対応に苦慮している所があります。今年度は、茨城県弓道連盟として、いきいき茨城ゆめ国体の成功が何より望む事であり、県連事業も、国体開催により、かなり変則になり、会員の皆様方にはご迷惑をお掛けいたします。会員一同の絶大なるご協力を頂き、いきいき茨城ゆめ国体の成功に向かって出航です。



茨弓連の運営



理事長 大峰 芳樹

本年から元号も新たに令和となり、令和元年5月11日・25日に開催した理事会及び代議員会で、議案等につきまして全ての議決をいただきました。

県外からの弓道人を招き、的確に運営し、役員や専門部が一丸となつて取り組み、茨城の印象をより良い方向に持っていきたいと願っております。

令和元年度の事業では、県を挙げての茨城国体を推進していかなくてはならないところです。昨年からは全日本勤労者弓道選手権大会（リハーサル大会）、国体関東ブロック大会など、大きな競技大会を運営してきました。先の茨城国体は昭和49年に行われましたが、その経験者は少なく、競技役員として携わった方はごく少数で、そのノウハウは先催県への視察を通して、茨城県や会場地である水戸市と協力して進めていかなければなりません。

茨城国体を見据え、茨城県弓道連盟主催県内の事業では、遠的弓道大会及び支部対抗戦を国体の前に設定し、大会に向けて競技役員の育成に努めていきます。両大会では競技役員と選手にエントリーされた会員各位には競技役員を優先させていただきご協力を願うところです。

本年の茨城国体に向けての競技役員育成に国体事務局長をはじめ尽力して事業を進めてきたわけですが、なにより会員の皆様方のご協力をいただかなくてはなりません。何卒宜しくお願いいたします。

さて、今年度の理事会・代議員会ですが、役員及び理事の交代がありました。役員等の改選時期ではありませんが、副会長の高体連部長の杉田幸雄氏がその職を辞し、後任に新井康芳氏、また、県北区理事では、那珂支部の休部に伴い石井孝典氏から大子支部の岡村廣氏がそれぞれ就任されましたことを最初に報告いたします。

次に、事業報告ですが、会議については会長会議及び事務局会議

が報告され、研修会では、県外研修会への参加者、県内講習会では14の研修会等に689名の参加が報告され、競技会では、一般、高体連、中体連から、それぞれ参加者、入賞者等が報告されました。審査会では、一般審査、中高生審査、連合審査の実施状況及び連合審査以上の合格者が報告されました。最後に強化部の事業報告では、例年になく充実した県外遠征等の国体に向けた強化事業が報告されました。

次に、決算報告では、最初に会員登録数が一般1217人で前年度と横ばい、一般会計では収入18,769,211円支出13,650,258円でその差額5,118,953円が翌年に繰越金として報告され、国体会計報告としては、当初18,000,000円の積立金ですが、プレ大会及び関東ブロック大会を実施するうえで全日本弓道連盟、茨城県、水戸市及び関東地域弓道連盟連合会より、それぞれ助成金を受け、収入21,508,656円、支出12,149,221円、差し引き9,359,435円を翌年に繰り越し、本国体の運営を行う旨、報告されました。以上の収支について、監事から監査報告がなされ、平成30年度茨城県弓道連盟一般会計及び国体基金会計の諸帳簿について監査した結果適正に処理されていることが報告され承認を得たところです。

また、当連盟の慶弔規程の制定について、理事会で議決を受け代議員会で報告したわけですが、近年、葬儀等が多くなり、その都度、当連盟がどのようにかわるのが良いか判断に苦慮し、式の関係上早急に決定しなければならぬところから規約第27条に基づき慶弔規程を設けたところです。葬儀等に関しましては、規程の別表に定める者につき、弔電等は早急に処願いたく各支部で会長名の弔電等を送り、後程、事務局に領収書を郵送し、精算をする旨説明をしたところです。

次に、令和元年度一般会計予算ですが、予算額18,318,983円で、前年度とほぼ同額の予算規模となっています。国体会計では、決算報告のあった繰越額9,359,435円に水戸市からの支給金を含め経費収支の概要が報告されました。

また、支部の設立について、支部設立規約により書面をもって申請し、概ね10名以上、代表者が存在する、既存の支部に所属している者は特段の理由がない限り新設する支部の会員になつてはならない等の規程がありますが、新設する支部の全員が初心者であることがあり指導する立場で代表者が新設する支部の会員になることが特段の理由に該当するとして承認さ

また、全日本弓道連盟の特別賛助会員に対する弔電奉呈として、「全日本弓道連盟会長名」での弔電です。「特別賛助会員逝去時の弔電費用請求用紙」として、県連のHPに掲載します。

以上が理事会代議員会の概要ですが、会長を筆頭に会員の皆様方のお力添えをいただき令和元年度の事業を邁進してまいります。

また、全日本弓道連盟の特別賛助会員に対する弔電奉呈として、「全日本弓道連盟会長名」での弔電です。「特別賛助会員逝去時の弔電費用請求用紙」として、県連のHPに掲載します。

以上が理事会代議員会の概要ですが、会長を筆頭に会員の皆様方のお力添えをいただき令和元年度の事業を邁進してまいります。

総務企画委員会として



総務企画委員長 明間 勲

総務企画委員会の役割として、指導方針の策定、審査会の合理的運行の検討、連盟活性化施策など、会長の会務に要する重要案件の検討を、長・中期的にまとめて会長に報告するものとするがあります。今後、その本来の役割を充実させていかなければならないと考えています。

さて全日本弓道連盟70周年式典が5月2日全日本弓道大会後に盛大に開催されました。その後に行われた京都審査会に参加して毎回考えさせられることがあります。不調より辛いのは健康を壊して弓道ができないこと。弓を手にして55年、若いころは不調でも、風邪をひいても弓を引いていました。若さもありまた体調を悪化させない自分なりの方法があったような気がします。それが年齢相応に体調をきちんと管理していても、た

とえば風邪かなど、少しでも違和感があったらすぐに必要なケアをしますが、審査前に健康を壊したときは、一番残念です。

稽古に迷ったら、自分に合う方法をいろいろ試してみるのも、よいことだと思います。何が自分に合っているか分かりません。自分の弓を見出すことが出来ず、もつと別な方法があるのではないかと、新しいことにチャレンジをしてきました。思ったら試して、挑戦することが大事です。たとえば、歩くだけで体調がよくなり医者いらず、歩くだけで9割の病気が治る、という医者がいます。そんなわけがない、少し大き過ぎないのか、そんな声が聞こえてきそうですが、治ると信じないと治らない。

歩くということをしつかり忘れていた時代だからこそ病気の9割は歩けば治るという気持ちで歩いてほしい、という医者の言葉を信じてやってみることが大事だと思います。

八段審査受審者は射形・射術を一生懸命稽古されているようですが、何が足りないのか。私を含めて体力不足ではないかと考えられます。健康、体力を維持するには何が大切か、私は日常の習慣だと思っています。何か自分にとっていい習慣を自分で決め、続けていくことが健康につながると思うのです。その時に自分の体力以上に目標を高くしすぎないことが大事だと思います。自分の体力以上のトレーニングを目標にしているか

ら続かない、例えばいきなりフルマラソンを目標にしても無理、誰だってできません。だから、まず歩くことから始める。毎日歩きながら体調を考えながら、少し遠くまで歩いてみようという無理のない小さな積み重ねの結果でいつのまにか体力が付いていく。一日だけではダメなのです。毎日やって10日、1か月、半年と続くことが大事なことです。プロ野球 山本昌投手は野球を始めたから50歳まで、寝る前に、手を鍛えるトレーニングをずっと続けてたそうです。毎日やることを習慣にしたそうです。



茨城国体に向けて



国体事務局長 森 昭夫



(1)はじめに
平成26年の第36号に国体準備委員長として初めて寄稿しました。今年で6回目になりましたが、「光

陰矢の如し」とでも表現すれば良いのでしょうか、ついに茨城国体開催年に突入しました。この原稿を書いている時期は国体まであと

160日になります。以下、項目毎に経過と現状を説明いたします。

(2)施設改修
近射射場は1月に床の再塗装を行いました。また、西日対策として平成27年12月に高さ10m、長さ42mの遮光フェンスを設置していますが、更なる改善策として日よけルーバーをシャッター外側に取り付けました。

遠的では、遠的矢が的場後方の道路まで飛んで落ちていて近隣の住民が拾い武道具へ苦情が入りました。これを機に県の施設担当が各地の遠的場を視察し、安全対策をどのようにするか検討が始まりました。昨年4月に県保健体育課、県建設技術公社、武道館、茨弓連が集まり第1回の会議を行い、10月から安全対策工事が始まり本年3月上旬に完工しました。防矢ネット等を取り付けるのがメインでしたが、国体競技会場にもなる

ことから、国体が終わってからの使い勝手を考え、矢取り道の新設しました。また植栽とネットフェンスを撤去し、矢道芝も整備することで横幅も広くなりました。また、LED照明で矢道を照らすことで夜間でも競技が出来るようになりました。国体本番では第一射場側の防矢ネットは取り外して観覧席からは観易いようにします。しかしながら防矢ネット支柱の径が318〜355mmと太いため、

座った位置によっては柱が邪魔で見づらいとの苦情が出るかもしれませんが、こればかりはどうしようもありません。

(3) 国体視察

最後の国体視察地は福井県敦賀市で開催（9月30日～10月3日）された福井国体です。久保田会長以下5名で視察に出かけましたが大型台風24号が敦賀市近くを通過することと、到着した日に9月30日、10月1日の2日間の競技は中止することが決まっていました。

新幹線も計画運休することと、茨城で関東臨時中央審査があり、準備もしなければならぬことから視察予定を大幅に変更し、2名を残して4名は急遽9月30日に帰路につきました。国体の競技日程も台風で2日間中止になった影響で、競技方法を変更し、
①少年男子・女子の近的・遠的及び成年男子・女子の遠的は各チーム12射（各自4本）にて上位8チームを入賞とする（同中は競射を行う）。決勝トーナメントは行わない。よって8チームが同率1位となる。
②成年男子・女子の近的は予選と決勝を行う。予選は各チーム12

射（各自4射）にて上位8チームを選出（同中は競射を行う）。決勝は抽選会後トーナメント戦を行い、順位を決定する。と大幅に変更されました。この結果、我が茨城県チームは成年男子が遠的で1位、少年男子が近的で1位になりました。喜び半分というところか。

(4) 競技役員

本稿執筆中でも未だ組織図が完成していません。プレ大会、関 boca大会の役員を経験された方々を再度見直し、不足している部署は新たに補充しました。まずは適材適所に配置して今年の県内大会で実践して頂き、競技役員必携以下マニュアルと称す）を修正していきます。まずは自分達でやり方を覚え、本番では補助員（高校生）を指揮してやってもらうことになります。

(5) 各種会議

昨年度は国体事務局会議を5回実施。メンバーは白石直之、大峰芳樹、中嶋鉄郎、後藤裕一、圓城寺賢一、生井栄作、森昭夫として3月から塚田哲也が加わって8名です。

国体実行委員会も5回実施。メ

ンバーは久保田清、明間勲、北島瑞男、白石直之、大峰芳樹、生井栄作、中嶋鉄郎、園部俊雄、圓城寺賢一、後藤裕一、佐久間和彰、高松清、稲葉健次郎、須能孝則、塚田哲也、森昭夫の16名です。

水戸市国体競技課との定例会議は白石直之、大峰芳樹、森昭夫が企画し、8回実施しています。国体も近くなっていることから月1回ペースから2回になりそうです。これからは競技役員の主任を中心として各グループで会議を行い、マニュアル作成をお願いします。第1回目のキックオフ会合として、4月21日の春季大会時に説明会を行いました。マニュアル作成は愛媛国体を基本とします。2回目以降は各グループで協議されるようお願いいたします。

(6) 国体PR

水戸市実行委員会が茨城国体に向けた実施競技の普及促進をねらいとして、国体種目のうち7つの競技の事前授業を計画しました。昨年10月24日に水戸市元吉田町の市立吉田小学校体育館へ、水戸市国体推進局員と茨弓連から13名が出向き、4年生103名の弓道体験を行いました。

最初に国体選手の方に弓を引ってもらいましたが、的に矢が中ると同時に大歓声があがりました。次は、生徒に弓を引ってもらいました。



生徒さんからは「体験の前に弓道のビデオを見ていたけれど、実際に弓を引いてみると、とても力が必要でした。的にあたった時はすごい爽快感でした。」とのコメントがありました。11月16日の茨城新聞朝刊に記事が掲載されたのでご覧になった方もいらっしゃると思います。

将来この子達が小さい頃弓を引いたことを想い出して弓道の世界に進んでくれたらと願うばかりです。

同じく水戸市実行委員会、ラ

ジオ放送でも水戸市開催競技のPRが出来るということで、4月24日に北島・白石両副会長と吉村静華強化部員3名がFMぱるるん（水戸市酒門町・76.2MHz）に生出演しました。約20分程度ですが弓道の魅力や国体での競技の方法などがPR出来ました。



(7) 終わりに

まずは国体時に台風が来ないよう祈るだけです。しかしながらこればかりは自然のことなのでどうにもなりません。「この秋は雨か嵐かは知らねども今日のつとめに田草取るなり」という句もあり、日々の務め・準備を着実に果たし、選手が安心・信頼して最高のパフォーマンスを発揮できるようにしたいものです。目指せ、茨城チームの総合優勝！

専門部だより

指導部

部長 川瀬 政人



平成30年度、指導部行事は計画どおり全16回の講習会を無事

終了することが出来ました。参加者は延べ人数689名と大勢の参加者があり、これも偏に講師の先生方、各役員、受講者各位のお蔭と御礼申し上げます。

指導部事業として、公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者「公認弓道指導員専門科目免除」制度を活用して募集したところ、23名の会員が受講され、所定の過程を終了し「修了証」が全日本弓道連盟より発行され、引き続き共通科目I（NHK学園の通信講座）を23名全員取得されました。本年度中に「日本体育協会公認弓道指導員」として認定される予定です。また、支部指導者伝達講習会で

は47名の参加があり、受講者が各支部にて伝達講習会を開催され、36支部より伝達講習会実施報告（内4支部が合同開催）があり500名の参加者報告がありました。（この講習会に参加された方は審査申込書の講習会受講歴欄に記入出来ますので、審査を受審する際は記入漏れないように願います）

指導部として本年度も全日本弓道連盟から通達されている「2019年度指導方針」に基づいて講習会を開催致します。「弓道教本及び副読本に基づいた基本の指導」

指導者の心得（地区指導者講習会及び指導者育成講習会）4項目

- 一、日本弓道の指導者として、自ら至誠と礼節を体現し真善美を目指すこと。
- 二、受講者に対する自己の影響力を認識し、自身の言動の倫理性について常に注意を払うこと。
- 三、指導にあたっては、自らが実践躬行すること。

四、指導にあたっては、弓道教本及び副読本に基づき全国的に統一された指導を行うこと。

指導項目（地区指導者講習会及び指導者育成講習会）5項目

- 一、射法、射技の基本
- 二、基本体の必要性
- 三、射品、射格の向上について
- 四、指導者育成講習会について
- 五、公認資格認定制度について

・適正な矢羽の使用について周知徹底を行う
指導部では本年度も13回の講習会開催を計画しております。
外部講師招聘講習会については昨年度と若干変更がありますのでご注意ください。

《令和元年度 外部講師招聘講習会》

- ・趣旨：本連盟の段位上位者を対象に、弓道の倫理と実技の講習を実施し、各自の力量を高めるとともに、指導力の向上を図り、本連盟会員への波及効果を期し、連盟の発展に資するものとする。
- ・主催：茨城県弓道連盟
- ・期日：令和2年3月28日（土）29日（日）
- ・日程：3月28日（土）
受付8：30
開講式9：00～終了16：30
3月29日（日）
受付8：30
閉講式16：00
- ・参加資格：錬士六段以上
- ・講師：全日本弓道連盟中央講師
- ・申込先：314-0257
神栖市太田新町三十一二十九

県弓道連盟

指導部長 川瀬 政人

TEL：0479-46-1103
携帯：090-4535-8002

メール：ibaraki_kyudo_shidoubu@yahoo.co.jp

参加費：4000円
申込先：郵便振替口座番号
00170-8-300200

口座名義：茨弓連指導部
申込金は返金しない。

申込み期限：令和2年1月1日（水）2月29日（土）必着

・持参品：弓具、弓道教本、副読本、筆記具、昼食

・その他：和服着用のこと。

本年度も各講習会に会員皆様の多数参加をお願い致します。

最後になりますが10月開催の「いきいき茨城ゆめ国体2019」の成功と、会員皆様の更なるご活躍を祈念いたします。



審査部

部長 和泉 武



昨年度の県弓連主催の県内審査会、及び茨弓連主管の「関東地区 臨時中央審査会」は滞りなく終了致しました。審査関係の方々のご指導ご協力に心より感謝申し上げます。又今回特筆すべきは、私事都合(病気療養)により下期臨時中央審査を含む全ての審査に職務を全う出来なかつた事です。審査委員の先生、審査役員の方々に多大なるご迷惑をお掛けした思いは格別で重ねてお詫びと感謝を申し上げます。

3期6年目の今年、皆様のご指導とご協力を賜り全力で務めを果たす所存であります。

それでは昨年度を振り返り、併せて平成から令和への改元を機に平成後期受審者数の推移を顧み令和元年に活用したいと思えます。

先ず昨年度の県内審査会実績を報告する 中高生審査会は4回、会場は水戸・土浦・取手・ひ

たちなか・東海村の5会場、延べ12回、13射場で開催 受審者数は2293人で対前年73名の減。同じく一般審査会は3回、ひたちなか、取手の2会場で369人 対前年比16人の増 県内審査会総数は2662人。茨弓連主管の連合受審者数は164人であった。又茨弓連主管で行われた関東地域臨時中央審査は10月6日から8日の3日間に渡り、錬士・6段・7段の3部門 受審者数889名で実施された。3日間に渡る大規模臨時中央審査は一昨年の臨時中央審査反省志備録を基に事前準備をした外、他の専門部員のご協力を頂き円滑な運営の中に終了。

次に平成20年以降30年迄を振り返る。受審者数の推移(別表参照)と出来事を重ね合わせ充実した審査会運営と受審者サービス向上の参考施策を見出し「令和元年」の展開の基にしたいと考える。

(別紙県内審査受審者数推移掲載) 別表の通り中高生の受審者数は平成20年頃より連続的に増加し25・26・27年頃にピークを迎えた。28年頃より微減の傾向を辿り現在に至り、今後もこの傾向は続く

と推測する。急激な増加への対応は①審査会場の増加で対応(ひたちなか、東海村の2会場で尚継続中)②26・27年の2年に渡り行われた水戸武道館改修に伴う使用不可の期間発生 この短期対応は鹿島、神栖、笠間高校のご協力を得て柔軟且つ迅速に対応した。③水戸会場の使用効率向上は第1射場一般、第2射場は中高生の同時合同開催とした(経費節約の効果も)④困難な学科試験会場確保に対しては、級位の学科試験をレポート提出で代行。(段位は従来通りの試験)⑤その他 急激な受審者数の増加は受審者の不慣れに連なり、円滑な会運営に課題を生んだ。中高体連専門部会と共に対応し大きな成果を得た経験は貴重であった。

以上が昨年の実績と平成時代後期10年の大まかな経過であります。次に今年度の活動を見通してみます。昨年度と同様に会場確保に苦心し難しい日程計画を余儀なくされた。土曜日開催回数は昨年と変わらず、難しい学校群割振りは受審者にも影響する可能性を予測。

切にご協力をお願いしたい。又他行事との重複計画(県連講習会、連合審査、臨時中央、地域大会等)も余儀なくされ役員確保は今春から苦戦。更に今年10月には「茨城国体」が開催される。種々準備活動は昨年から続き、審査部員も色々な関わりを持ち昨年に比して極めて多忙な1年になるかと推察。「茨城国体」を成功裡に収め、先の平成後期分析を基に「令和元年」以降もより充実した審査会運営を図るべく積み残しの事項を含め具体的施策計画を明らかにした年にと考える。①水戸周辺集中を分散 ②土曜開催の是非 ③受審者の利便性を考慮した最適開催地検討(県西・鹿行等) 以上具体的改善策案を立案し次年実現を目指したい。

今年も円滑な審査会運営に最大の努力を致しますので皆様のご協力宜しくお願い申し上げます

審査部からのお願い

一 審査申込に関係する件
① 申込締め切りの厳守をお願い致します。

② 申込事務手続を正確に行つて下さい(認め印、申込年月日 会員ID等の記入)

③ 審査申込書と弓道級段審査申込書の一致(金額集計計算ミス・振り込み金の過不足・審査種別人員の不一致等)

④ 県外審査の申込書及び審査料金の振込み
は必ず審査会別に纏める事 代議員会でお配りした資料の再確認をお願い致します。

二 審査当日の注意事項

平成20年～平成30年 県内審査受審者数推移

年度	20年	21年	22年	23年	24年	25年
中高生	1,388	1,676	1,770	1,607	2,249	2,522
一般	307	271	240	257	335	326
計	1,695	1,947	2,010	1,864	2,584	2,848

年度	26年	27年	28年	29年	30年
中高生	2,403	2,495	2,412	2,326	2,293
一般	363	293	368	384	369
計	2,766	2,788	2,780	2,710	2,662

何処の会場も忘れ物があり処分に困っております。忘れ物をしない、持ち物には氏名を書く等の対応をお願い致します

競技部

部長 中嶋 鉄郎



五所宮支部の中嶋です。今年度も競技部は、副部長齊藤孝司

(牛久支部)、萩野谷綾子(射友会支部)、圓城寺賢一(水戸桜川支部)、会計は大貫富士男(水戸桜川支部)、事務局は小出則夫(水戸桜川支部)、右近大道(牛久支部)の体制です。よろしくお願い致します。

「いきいき茨城ゆめ国体」を控えて

いよいよ本年10月には「いきいき茨城ゆめ国体」が開催されます。3年前から国体を想定して近似的遠の大会を実施して参りました。お陰様で会員の皆様方の多大のご協力を得まして、無事大会運営を

することができました。心より感謝申し上げます。

国体は成年男子・女子、少年男子・女子の4種別ごとに近似的競技、遠的競技の2種目を4日間に渡って実施されます。昨年6月1日〜3日には第65回全日本勤労者選手権大会(国体プレ大会)が開催されましたが、近似的競技のみでした。それでも国体同様のブースの設置や、看的表示盤及び補助表示盤の設置された中での全国規模の大会として、国体本番さながらの緊張感をもって大会運営をしていただきました。特に詳細なマニュアルに沿っての競技運営は初めての経験でしたので、競技が成功裏に終了できましたことは皆様のご協力の賜と感謝申し上げます。

更には8月26日第73回関東ブロック大会が開催されました。8都県の近似的競技、遠的競技の1日だけの順位決定戦でしたので、国体本番の決勝戦の1日を想定できなかったのではないかと思います。全日本勤労者大会も関東ブロック大会も団体戦であり、どのチームも各県の代表としての威信をかけて

戦っている訳ですから、競技運営に少しのミスも許されたい訳です。

そして、国体は各ブロックを勝ち抜いてこられたチームの戦いです。各チームの意気込みと代表としての威信は推して知るべしと考えます。このように考えますと、国体競技の4日間はいかに緊張感に包まれた長い日程であるのかをご理解いただけないでしょうか。

競技役員の方々のみならず、会員の皆様方のご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。

大会運営(県大会)についてお願い

一つ目は、大会全般のお願いです。

今年度の県大会は、春季大会、県民総体兼県選手権大会予選、県選手権大会決勝、遠的選手権大会(国体遠的競技リハーサル大会)、支部対抗戦(国体近似的競技リハーサル大会)、中野杯記念大会、新年射会、(勤労者大会)です。昨年同様、残念ながら実施できる大会はかなり制限されてしまいます。遠的選手権大会(国体遠的競技

リハーサル大会)、支部対抗戦(国体近似的競技リハーサル大会)は昨年と同様の方法で実施する予定ですが、支部対抗戦については各支部1チームに制限するのではなく支部会員20名以上の支部は2チーム参加できる予定です。詳細は代議委員会において決定されます。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

二つ目は弓道場控えの空間における選手の流れの徹底です。2年前から選手控え入場口を廊下側の一カ所にさせていただいています。同時に第三控から第二控、第一控そして射場入場、退場を一方通行とし、併せて選手控えが落ち着いて控えられるよう騒々しくならないために、退場口周辺での射場内見学は控えていただいております。お陰様で第四控から入場までの流れが大会ごとにスムーズになってきているように感じます。

三つ目は、弓具の記名のお願いです。大会ごとに弓具の忘れ物が増加しています。弦巻、矢など毎回多くの忘れ物が届きます。矢の間違ひも数件ありました。自分の

弓具は必ず記名するか、矢は印を付けるなどの工夫をお願いします。「安全」と「公平」であること。

昨年同様に心掛けて大会運営を実施して参りたいと考えていることです。「安全」についてはいつでもないことですが、適正な弓具の使用をしていただくこと、そして競技中の危険な場面を作らないことです。

「公平」であることについては、試合に臨む以上誰でもが勝ちたいと考えますが、誰もが公平に戦えるよう大会運営をするためには、競技規則に則った競技運営がなされなければなりません。みなさんに不満が残らないような大会運営に努めて参りたいと考えております。この点に関しても昨年同様、会員の皆様にはご協力のほどよろしくお願い致します。

競技役員への願いは、できるだけ多くの会員の皆さんに参加していただくことが最も重要な事だと考えています。会員皆様の弓道の技術向上につながるような大会運営ができることを目指していきたいと考えております。

なお、大会ごとに競技最初の手皆中者には奨励賞がありますので、是非閉会式に出席していただきまして奨励賞を受け取っていただきたいと思ひます。
今年度もよろしくお願ひ申し上げます。

強化部

部長 高木 勉



H30年度も会長・副会長をはじめ役員の先生方、強化部スタッフのサポートで無事一年を終了することができました。皆さまは心より感謝致します。令和元年度も一層の努力を致す所存でございますので、何卒ご指導ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

3都県関東ブロック通過
成年男子

近的 19中 3位
遠的 155点 1位
総合 2位
国体関東ブロック通過
成年女子

近的 18中 2位
遠的 125点 1位
総合 1位
国体関東ブロック通過
少年男子

近的 18中 5位
遠的 142点 2位
総合 3位
国体関東ブロック通過
少年女子

近的 15中 6位
遠的 82点 6位
総合 8位
国体関東ブロック不通過

H30年度の成績

8月26日(日)国体関東ブロック大会(茨城県武道館弓道場)

成年8都県中
4都県関東ブロック通過
少年8都県中

少年8都県中

福井国体(福井県敦賀市総合運動公園弓道場) 9月30日(日)~10月3日(水)

遠的・近的上位8位まで予選通過。
2018年福井国体は台風の影響で競技期間が4日間から2日間になり、予選の射数が8射から4射に変更、少年の近的・遠的、成年の遠的は決勝トーナメントを行わなく、予選通過県がすべて1位となりました。

2018年福井国体は台風の影響で。

響で競技期間が4日間から2日間になり、予選の射数が8射から4射に変更、少年の近的・遠的、成年の遠的は決勝トーナメントを行わなく、予選通過県がすべて1位となりました。

福井国体成績
成年男子
遠的 予選 85点
予選通過1位

近的 予選 9中
予選通過1位
成年女子
遠的 予選 44点
予選不通過順位なし

近的 予選 6中
予選不通過順位なし
少年男子
遠的 予選 61点
予選不通過順位なし

近的 予選 10中
予選通過1位

成年男子・成年女子・少年男子が本国体に出場し成年男子が遠的で36年ぶり2度目の優勝、少年男子が近的で10年ぶり3度目の優勝でした。

予選通過1位

本来の練習会場が仮設のため台風の影響で使用できなくなり、練習場の変更などにより思うように練習ができませんでした。しかし監督・チームスタッフの努力と選手が集中力を欠くことなく試合に臨めたことが、福井国体の成績に繋がったと思ひます。

今年はいよいよ茨城で国体が行われます。総合優勝に向け総監督を中心に各監督・チームスタッフと選手が一丸となり強化チームを構成するとともに、地元開催のプレッシャーに負けないようメンタルトレーニングを取り入れた精神力の強化、更なる技術力強化を図るなどをして、ベストコンディションで本大会に臨めるよう準備して行きたいと思ひます。

施設部

部長 園部 俊雄



引き続き施設部担当を仰せつかりました友部支部の園部です。よろしくお願ひ致します。今年はいよいよ茨城国体が45年ぶりに9月28日(土)から10月8日(火)の間で開催されます。弓道競技は10月4日(金)から10月7日(月)まで行われます。弓道の会場となる茨城県武道館の設備工事も急ピッチで進んでいます。昨年度末に遠的場の安全対策の為サブグラウンド側のフェンスと植木等の撤去移植工事が終わり遠的場周囲は高くネットが張り巡らされて狭い感じがさえます。武道館内の通路は絨毯が張り替えられました。現在武道館の外壁の塗装工事が7月完成を目指して工事が進んでいます。

近的射場内は床の塗装が完了したばかりです。塗装状態が安定するまでの間道場内での机イス等を使用する場合は、今年の7月中まで大道場のゴムマットを使用して



の養生ををよろしくお願いいたします。9月の国体開催間近にはサブグランドに近似的場・遠的場の練習場として観客席と矢返し通路等が仮設対応設置となる予定です。

平成31年度の諸行事もスタートしましたが武道館弓道場での大きな大会等は7月15日の遠的選手権大会、8月24日の支部對抗戦等を国体リハール大会と位置付け国体に向けた研修を予定しています。そして翌年3月28日から29日には外部講師招聘講習会等が予定されています。

今年度の各種大会等も通年の予定より少なくなっております。講習会、審査会、競技大会等の行事が円滑に運営されるよう協力していきたいと思っております。

大会等については我々施設部員一同が競技部役員と協力しながら今年度も競技運営に支障のないよう努力していきますのでよろしくお願い致します。

皆様に再度のお願い

茨弓連の倉庫内にある備品の使用後は必ず元の位置に収納してく

ださい。

自分の弓具等に支部名、氏名を記入して忘れ物をしないように心がけていただきたいと思います。

地区だより

県北地区

常陸太田市支部 立川 久泰

県北地区は、かつては産業も盛んで人口も多く、弓道も隆盛を極めていた時期がありました。現在は部員が少なく、あまり活動出来ない状態です。

常陸太田支部においては地元の高校生も参加して毎年4月29日に真弓賞弓道大会を開催し、今年で45回目となります。

常陸太田は戦前より弓が盛んな地であり、特に旧制太田中学(現太田一高)弓道部からは、数多くの政治家・企業人・教育関係者を輩出しています。中野慶吉範士(日本弓道連盟会長 県議会議員)

県教育委員長(関 宗長範士(県議会議員 茨城県弓道連盟会長))

横山亮次教士(日立化成株社長)

茨城県弓道連盟相談役) 武藤 彬氏(県議会議員) 多賀野耕造氏(県教育委員長) 大村憲一範士(広島

県弓道連盟顧問 元会長) 等です。戦後、岡部秀治氏(元常陸太田市収入役)が中心となり地元の弓道人が、旧制太田中学弓道部顧問の蘇原二郎先生のもとで真弓会として活動しました。この伝統を後輩

達に伝えようと始めたのが、真弓賞弓道大会です。現在は太田一高

・太田二高 佐竹高校・那珂高校と地元の太田中学校が参加し、秋の市民弓道大会とあわせ、春の大会として行います。大会は参加者全員で行ない、技術を競うだけでなく試合を通して一般参加者との交流

を深めていく大会にしています。普通一般の競技の他に、一射必

中の理念に基き、蘇原先生の名前を残すため射詰賞を設けて蘇原賞として大会最高の賞と位置付けています。射詰賞男女1名ずつで、

大概是上位入賞者が優勝しますが、下位の方からも優勝することもあ

ります。数本で決する年もありますが、数人で十数本競うこともあります。

当時この大会を始めた時に中心になってくださった方々の多くが鬼籍に入られていますが、世代を越えて先達者の志を伝えられるよう継続出来ればと思っています。

日立地区

日立市支部 森實 裕人

歴史ある大会、新道場にて初開催

日立地区は、北茨城市、日立金属、日立中央、日立市、日製日立、JX金属、東海村役場、東海村、高萩市、原子力機構、鳴和の11支部・約170名の会員で構成されています。

本地区には、二つの歴史を重ねた大会があります。「県北弓道振興大会」(第一回昭和25年)と「村松山弓道大会」(第一回昭和47年)で、今回は県北弓道振興大会について紹介します。

県北弓道振興大会は、弓友の親睦を深め、弓道の普及・振興を図

ることを目的として始めました。大会運営は、大会に加盟する一般支部が持ち回りでを行い、大会への参加は加盟支部の他に、本地区に在籍する大学及び高校の弓道部員も参加できる大会です。

大会は、一手坐射、四ツ矢2回の計10射の的中数を競います。表彰は、団体が上位3位まで、個人が15位まで、一手皆中者かつ10射5人以上の中から個人優秀1名および、10射皆中者には皆中賞を表

彰します。ちなみに、直近過去5年間では、一般1名、高校生1名の方が皆中賞を受賞されています。ところで、日立地区では、老朽化による道場閉鎖が相次ぎ、大会で利用可能な道場が減少してしまいました。そのため、近年の県北

弓道振興大会は、主に東海村総合体育館を利用してまいりました。

そのような状況の中、昨年度の第196回大会は、平成29年1月に完成した池の川さくらアリーナでの初めての開催となりました。

本大会には、団体23チーム、個人2名の計71名が参加し、個人戦と個人優秀では射詰競射、団体戦で



は過去最高の中数となる30射24中等、盛況のうちに終える事ができました。

県北弓道振興大会を東海村総合体育館だけでなく、池の川さくらアリーナでも開催できるようになり選択肢が増えたことで、大会への参加者も増加することが見込まれます。

池の川さくらアリーナを管理する日立市体育協会によると、アリーナ弓道場の利用者数は、平成29年度は1331人、平成30年度は1845人で、514名の増加との事でした。

水戸地区

今後も、県北弓道振興大会だけでなく市民大会や弓道教室を通じて、本地区の各支部や学生への認知度が高まり、アリーナの利用者数がさらに増えると共に、日立地区における弓道発展の貢献に繋がればと思います。

水戸地区は16支部、300余名の会員で構成されています。各支部とも積極的な大会参加と昇進、昇段を目指し日々稽古に励んでいるところです。

行政と連携した弓道大会を主催し、ひたちなか湊支部のひたちなか市近郊射会が34回を重ね、水弓連主催の観梅大会も後述のとおりです。

友部支部 門井 了

友部支部は、今年度42名(県連登録32名)の大所帯になりました。五月の連休明けからお盆前の三ヶ月間の弓道教室の成果と自負しております。見晴らしの良い弓道場に弦音が絶える時は、数えるほど

です。県の大会・講習会にはむろん、地方大会にも積極的に参加しております。毎月の例会では、七月の50射会、一月の初射会に豪華賞品を用意して盛り上がり、2月の支部講習会では範士九段柴田猛先生のご指導を仰ぎ研鑽に努めました。

茨城町支部 高橋 義之

茨城町支部では、茨城東高校の弓道場を借りて月曜と金曜の夜に活動。週2回の練習なので貴重な時間だ。仕事の関係で練習の終わるころ来る人もいる。その熱意に郡司教士六段の指導が応える。尾吹錬士五段は国体などで活躍し支部のお手本。月例射会では坐射や演武の練習も行う。秋には茨城町弓道大会を開催。高校生に弓を楽しんでもらうため一般とは別に高校生の大大会も開催。納射会や射初会では全員に賞品が。反省と抱負も。

内原支部 江畑 博通

水戸市における弓道活動は二つに分かれます。一つは各支部(水

戸市・みと葵・水戸桜川・内原・堀原・射友会)での活動です。二つ目は平成16年4月に発足した水戸市弓道連盟(以下 水弓連)です。水弓連はこれらの各支部と市内7校の高校弓道部・3校の中学弓道部で構成され、行政と連携し、春季大会・市民大会・秋季大会・観梅大会を開催します。特に観梅大会は57回を数え、49回大会では645名の参加者がありました。大会1週間前の東日本震災により止む無く中止となりました。この大会は県内は勿論関東・東北からの申込みがあり、更に水戸市のPRと成るべく観梅期間の行事の一つとして頂けるよう努力しております。

石岡地区

美野里支部 荻原 裕一

石岡地区の原稿は、各支部長に活動報告や写真提供をお願いしてまとめています。

美野里支部の県弓連の登録者は7人で、仕事の都合で未登録者が1名います。揃っての練習は土曜



の午後ですが、ほとんど毎日何人がが練習しています。一手座射、四矢立射、一本ずつなど「中たる射」を目指して調整の仕方々々です。県代表選手選考のために月例会も復活しました。

石岡支部は31名で、夜間練習は近隣の関係もあり、昼間に限られるため、仕事をしている若い人が少ない現状です。第19回石岡市親善武道大会弓道の部を開催しました。昭和55年から弓道教室は38期生まで輩出し、今年度は5名が会員に加わり、昇段審査を受けました。古稀及び傘寿の祝賀射会や花

見射会、芹澤杯50射会などは盛況で、控えが満席になります。
 空自百里支部は7名で、全自衛隊弓道大会で昨年に続き団体優勝しました。県連の大会や講習会に積極的に参加できるように練習に励んでいます。

玉里酔心館支部は3名で、石岡商業高校弓道場で土曜日曜の午後から練習しています。寄る年波に体力が追い付かず開店休業が続いている者、学業が忙しく練習の暇もない者(学生の本文を果たして欲しいものです)、10月に開催される国体の仕事にかまけて足が遠のいている者ですが、来年こそはという思いを大事にしてイメージトレーニングに励んでいる今日この頃です。

小川支部は小美玉市教育委員会主催のスポレクデーが、体育の日に玉里運動公園で開催され、美野里・小川・空自百里支部の支援により160名の老若男女が弓道を体験しました。また、小川地区のやすらぎの里祭りに初めて弓道体験コーナーが設定され、小学生、父兄や祭り関係者の皆様、60名が

矢を放つ快感を体験しました。現在小川中学校弓道場で土曜午前中練習しています。初めて弓を握る体験者等も時々現れ楽しく実施しています。

土浦地区

つくば支部 石塚 政弘

土浦地区は土浦、土浦亀城、新治、霞ヶ浦、阿見町、つくば市、筑波北条の7支部で構成されています。各支部の活動状況や出来事をいくつか紹介します。

土浦支部では、4月に土浦桜まつり弓道大会を開催し、全体で520名の参加がありました。また、部内活動として月例射会、20名の初心者に参加した弓道体験会を実施しました。

霞ヶ浦支部は、百年程前から愛好者によって活動なされてきた歴史ある団体です。中学生から今年卒寿の先生まで、30数名の会員が在籍しており、休館日以外毎日活動をしています。先生は昔と変わらぬ中を維持され、その弓を引く姿に元気を分け与えられてい

ます。霞ヶ浦支部は鹿島神社奉納射会、かすみがうら市長杯などを主催・協賛しているほか、毎月第2土曜日に月例会を行っています。月例会の余興では金的、ビンゴ的やダーツ的などを用い、楽しく活動しています。

阿見町支部は平成30年、東日本大震災以降自粛していた夜稽古を再開しました。SNSアプリ「ライン」を活用した連絡網により指導者不在時にも道場内での事故防止に留意しつつ積極的かつ自主的に稽古し切磋琢磨しています。2名の昇段者と新規入部者2名も加わり、活動は益々活発になっています。普段の稽古は月、水、金曜



の午前中と土、日曜の午後に阿見中学校弓道場にて、正射必中をスローガンに更なる昇段を目指して稽古に励んでいます。

昨年は40数年ぶりに全日本勤労者弓道選手権大会が茨城県で開催されました。審判委員として閉会

式に参加した筑波北条支部の林田國洋氏は、優勝旗のペナントに自身の名前を見つけ、喜ばれていました。これは、林田氏が20代の頃に新日本製鐵株式会社メンバーとして佐賀県唐津市で開催された同大会を制した時のものだそうです。「この大会に審判委員として参加したことで、またひとつ思い出が増えました」と、当時の奮闘記に添えて支部員に話されたそうです。

このほか、各支部のホームページにも情報が掲載されています。ぜひご覧ください。

県西地区

下館支部 鶴見 富雄

県西地区は、「筑西五所宮支部」、「北総支部」、「古河市支部」及び

「下館支部」で構成され、昨年度の年度当初の県連登録者数合計71名という地区です。地区は広いが、高等学校以外では公営の弓道場が下館のみである点が、地区の弓道の発展にネックになっている点だと思えます。

昨年度の県西地区における主な活動を紹介します。北総支部においては、坂東市における弓道の普及・底辺の拡大に資するため、毎年坂東市弓道大会の開催に協力しています。

昨年度は平成31年2月24日に第6回大会が行われました。この大会は平成25年度に平将門生誕1111年を記念して開催されたのが始まりで、体育館内に特設の弓道場を設置して行っております。

第3回からは、インターハイでの試合を模して、中・高校生を対象に5人立ち2射場で競技を行っております。さらに、競技終了後の納射は、地元中学生が和服着用の上、行っております。参加した中学生に弓道の奥深さを伝え、将来の自分の姿を重ねてほしいと願っ

て披露しています。

下館支部では、県西地区内各支部の弓人を含めて、技術向上・競技力向上に資するため、範士招聘の講習会を開催しています。

昨年度は、11月11日(日)に「柴田範士9段：県連名誉会長」をお招きし日立化成五所宮工場「五櫻館弓道場」において開催しました。式段から教士まで28名が参加し、午前中は各自一手座射を行い、体配・射技にわたって柴田先生から講評をいただきました。午後は主として射技の直接指導をいただきました。

県西地区支部連合会では、県西弓道大会を開催しています。昨年度は、平成31年1月20日(日)に県西地区および近隣の中学・高校9校133名、一般67名の参加を得て筑西市武道館弓道場において第38回大会が開催されました。

毎年、厳寒のこの時期に行われるため悪天候の心配や風邪・インフルエンザの影響による欠席者の増加の心配がありますが、昨年度は好天に恵まれ、多少の不参

加者はありませんでしたが成功裏に終えることができました。

県南地区

蒼藤会支部 菊地 祐太

県南地区は、蒼藤会支部、牛久地区、稲敷市支部、取手支部、藤代支部、守谷支部、竜ヶ崎支部の七支部にて構成されております。

県南地区の主な大会として、県南地区の支部が主催となつて開催される県南弓道大会があります。県南弓道大会は毎年多くの方々にご参加頂きまして、取手グリーンスポーツセンターの弓道場に於きまして、毎年秋口に開催しており、

一般の部と高校の部があり、毎年約三百名ほどの参加者の集まる大会であります。毎年欠かすこと無く開催できておりますのは、ご参加頂く方々、連盟のご後援、県南各支部の方々のご協力に他なりません。改めて感謝申し上げます。

さて、皆様には毎年欠かさずに参加されている「ローカル大会」はありますでしょうか。私の周りではこの「ローカル大会」のこと

を「お祭り大会」と呼ぶ習慣が学生の頃よりありました。なぜ「お祭り大会」と呼んでいたのかその由来は分かりませんが、想像するに「堅苦しくない」「遊び的のよ

うな催し物がある」といった参加者を楽しませる創意工夫がみられるのではないかと思います。県南地区でも先述の通り、県南弓道大会を毎年開催しており地区内外から多数のご参加を頂いております

が、ふと俯瞰してみると、この県南弓道大会は「学生」と「一般」の交流の場として毎年開催しておりますが、「お祭り大会」として参加者を楽しませることができて

いるのか。県南弓道大会にご参加頂く皆様に、大会を楽しんでもらう為に県南地区としてできることはないかを考える必要があると感じています。

時代とともに大会の在り方も変わつてくると思います。申し込み方法や競技内容など、時代に即した形で開催しご参加いただくことが「ローカル大会」に求められているのではないかと感じております。

時代とともに大会の在り方も変わつてくると思います。申し込み方法や競技内容など、時代に即した形で開催しご参加いただくことが「ローカル大会」に求められているのではないかと感じております。

鹿行地区

潮来支部 白鳥 悦男

鹿行地区には、行方支部、銚田支部、波崎支部、神栖支部、鹿嶋支部、三菱ケミカル支部、潮来支部の八支部があり、各支部では年間を通して独自に開催しております

弓道大会があり、潮来支部においては今年で68回を数える「あやめ祭弓道大会」があり、県内外より高校、一般の多くの弓友の方にご参加を頂き開催されております。

この大会の会場となる潮来高等学校弓道場は、昭和49年に全日本弓道連盟会長の中野慶吉範士の墓目の儀で竣工祝賀が行われ、昭和49年の行われた茨城国体弓道競技会場となつた道場で、道場内には

当時の競技役員、選手名、成績等が掲示されております。当時、私は大学生で大会役員として参加させて頂きました。振り返りますと、開会式は学校のグラウンドで行い、競技が始められました。特に思い出として残っているのは遠的競技、もちろんグラウンド

内の特設会場で、あいにくの雨模様、射場はテントでしたが的前審判、矢取り方は雨合羽を着ての手伝いでした。一般女子と高校女子の活躍により男女総合で茨城県は第2位の成績でした。

今回の茨城国体においても、前回を上回る成績を期待致します。鹿行地区各支部においても、それぞれ特色のある大会を開催しておりますが参加を頂いている弓友の皆様が気持ちよく弓を引くことが出来ます様に「おもてなしの心」を持って迎えたいと心がけております。



会議報告

県外

関東地連会長会議 (久保田 清 H30/4/5)
全弓連評議委員会議 (久保田 清 H30/6/28)

関東地連会長会議 (久保田 清 H30/9/22)

全国地連会長会議 (久保田 清 H30/11/28)

県内

総務企画委員会 (武道館 H30/9/20)

理事会 (茨城県職業人材育成センター H30/5/12)

代議員会 (茨城県職業人材育成センター H30/5/26)

研修事業報告

県外

〔関東北地区〕指導者講習会 (水戸市 6/16~17)

中井川 一郎、森 昭夫、林田 國洋、海老根芳江、萩野谷綾子

〔関東北地区〕指導者育成講習会 (宇都宮市 6/23~24)

境 貴洋、柴山 純子、山口 純、大森 陽平、相原 利恵
中央研修会 (名古屋 10/5~7)
福地平

県内

1、講師・審査委員研修会 (H30/4/1 水戸 66)

2、第1回 五段講習会 (H30/4/22 水戸 46)

3、第1回 三四段講習会 (H30/5/6 水戸 63)

4、「関東北地区」指導者講習会 (H30/6/16 水戸 30)

5、〃〃 (H30/6/17 水戸 30)

6、第1回 教士講習会 (H30/6/24 水戸 29)

7、支部指導者伝達講習会 (H30/7/28 水戸 47)

8、第1回 錬士講習会 (H30/7/29 水戸 54)

9、教職員講習会 (H30/9/1 土浦 13)

10、第2回 三四段講習会 (H30/9/16 水戸 68)

11、第2回 五段講習会 (H30/9/23 水戸 44)

12、第2回 錬士講習会 (H30/9/29 水戸 47)

13、第2回 教士講習会 (H30/10/27 水戸 30)

14、高校審判実技講習会 (H31/1/14 水戸 38)
15、外部講師招聘講習会 (錬六以上) (H31/3/30 水戸 44)

16、〃〃 (H31/3/31 水戸 40)

〔公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者制度〕

1、全弓連 (公認弓道指導員専門科目免除) 希望者手続き終了 H30/4/1 認定、有効期限 R4/3/31

2、専門科目I (NHK学園の通信講座) 受講終了 R1/6 登録予定 23名 受講者数

県外大会 一般

第65回全日本勤労者弓道選手権大会 (水戸市 H30/6/2~3)

・日立製作所茨城A (久保田 亮、尾吹 将大、竹之内正宏)

・日立製作所茨城B (笹沼 健一、富樫 至、森實 裕人)

・日立製作所茨城C (矢野 淑江)

・日立製作所茨城D (村橋 遼悟、重藤 瞬)

・日立製作所茨城E (村橋 遼悟、重藤 瞬)

第73回国民体育大会関東ブロック大会 (茨城県 H30/8/26)

・少年男子 近の5位、遠的2位、総合3位 (通過)

・少年女子 近の6位、遠的6位、総合8位 (不通過)

・成年男子 近の3位、遠的1位、総合2位 (通過)

・成年女子 近の2位、遠的1位、総合1位 (通過)

第69回全日本男子弓道選手権大会 (天皇杯) (東京都 H30/9/14~16)

・辻 尚宏 (決勝進出)、福地 平、米山 良美、岩田 隆

第51回全日本女子弓道選手権大会 (皇后杯) (東京都 H30/9/16~18)

・高橋 輝子、石井 幸子 (東京 H30/9/23)

・称号者の部 5位 高橋 輝子

第73回国民体育大会弓道競技会 (福井県 H30/9/30~10/3)

・成年男子 (久保田 亮、尾吹 将太、山口 純)

・少年男子 遠的1位 (村橋 遼悟、重藤 瞬)

田川 晟梧 近の1位
・成年女子 (長谷川絵鈴、斎藤 詩乃、中村奈津美) 近の、遠的 不通過

第69回全日本弓道の選手権大会 (石川県 H30/10/19~21)

・男子の部 大森 陽平、境 貴洋、山口 純

・女子の部 柴原一利子、相原 利恵

第135回明治神宮奉納全国弓道大会 (東京都 H30/11/3)

・称号者の部 4位 中嶋 鉄郎

・称号者の部 8位 萩野 淑江

第31回ねりんピック (富山市 H30/11/3~5)

・齊藤 千晴、越川 春江、湯浅 政夫、平須賀 功、坂本 允

・矢崎 一男、志田 正実、沖田 紀子

第2回都道府県対抗弓道大会 (日本武道館 H30/11/24)

・尾吹 将大、山口 純、高橋 輝子、古俣 正喜、米山良美 5位

第46回全自衛隊弓道大会 (東京 H30/12/9)

・団体戦

・団体戦

- 優勝 (岡田智光、大西伸明、大竹泉全)
- 個人戦五段以上の部
- 優勝 (岡田智光)

県外大会 教職員

第56回関東教職員弓道大会
(茨城県水戸市 H30/7/1)

- 男子団体3位
- 宮本 和明、青柳 優、信戸 修一
- 女子団体優勝
- 木村亜紀子、相原 利恵、大金喜代子

県外大会 高体連

第62回関東高等学校弓道大会
(千葉県 H30/6/1~3)

- 男子団体の部
 - 予選通過 土浦第一
 - 予選敗退 清真学園、水戸桜ノ牧、古河第二
 - 男子個人の部 特になし
 - 女子団体の部
 - 予選通過 清真学園
 - 予選敗退 水戸桜ノ牧、水戸第二、緑岡、鹿島
 - 女子個人の部 特になし
- 第63回全国高等学校弓道大会**
(静岡県 H30/8/2~5)
- 男子団体の部
 - 予選敗退

- 女子団体の部
- 第5位 清真学園
- 男子個人の部
- 準決勝進出 安藤 大翔(波崎)
- 予選敗退 仲村 海音(土一)
- 女子個人の部
- 決勝進出 石井 真美(水二)、野川 観鈴(藤代)

第73回国民体育大会

関東ブロック大会弓道競技
(茨城県 H30/7/24/26)

- 少年男子の部
- 近似的5位、遠的2位、総合3位(通過)
- 少年女子の部
- 近似的6位、遠的6位、総合8位(不通過)

第73回国民体育大会弓道競技
(福井県 H30/9/30~10/3)

- 少年男子の部
 - 近似的 第1位
- 第37回関東高等学校弓道個人選手権選抜大会**
(東京都 H30/9/8~9)
- 男子の部
 - 第2位 飯塚 晴己(妻二)
 - 女子の部
 - 第7位 紙田梨華子(清真)

第37回全国高等学校弓道選抜大会
(岡山県 H30/12/24~26)

- 男子団体の部
- 予選敗退 日立北
- 女子団体の部
- 決勝進出 水戸第二

第18回東日本高等学校弓道大会
(群馬県 H30/3/23~25)

- 男子個人の部
- 準決勝進出 市川 海人(妻二)
- 予選敗退 千葉 大地(石二)
- 女子個人の部
- 第3位 紙田梨華子(清真)
- 予選敗退 檜山珠寿(水三)
- 5人制男子の部
- 予選敗退 石岡第一、守谷、日立北、下妻第一
- 5人制女子の部
- 予選通過 下妻第二
- 予選敗退 清真学園、水戸第二、水戸桜ノ牧
- 3人制男子の部
- 予選通過 石岡第一、日立北、下妻第一
- 予選敗退 守谷
- 3人制女子の部
- 予選通過 清真学園
- 予選敗退 下妻第二、水戸第二、水戸桜ノ牧

県外大会 中体連

第29回関東中学生弓道大会
(茨城県 H30/8/10)

- 団体の部
- 男子 内原中 第3位
- 個人の部
- 男子 岩木 海大(内原) 7位入賞
- 個人の部

第15回全国中学生弓道大会
(中央 H30/8/17~19)

- 男子 瀨尾 優希(太田) 8位入賞
- 個人の部
- 男子 小林あすか(阿見) 8位入賞
- 団体の部
- 男子 城西中学校 出場
- 女子 清真学園中学校 ベスト16
- 個人の部
- 男子 黒川 瑛文(阿見) 出場
- 女子 日向寺美羽(清真学園) 出場

連盟後援行事

土浦桜祭り大会
(土浦 H30/3/31、4/1)

村松山弓道大会
(東海村 H30/4/1)

鹿島神宮弓道大会
(鹿島 H30/4/29)

神栖弓道大会
(神栖 H30/5/20)

あやめ祭り弓道大会
(潮来 H30/6/17)

県南弓道大会
(取手 H30/9/30)

県西弓道大会
(下館 H31/1/20)

観梅弓道大会
(水戸 H31/3/10)

茨城県弓道連盟主催(主管)県内大会結果

支部対抗
H30/4/8

- 団体戦
- 優勝 堀原
- 準優勝 稲敷市
- 第3位 波崎

県民総体兼選手権予選
H30/5/27

- 男三段以下
- 優勝 菊地 凜
- 準優勝 平須賀 功
- 第3位 矢幡 拓弥
- 男四段以上
- 優勝 古俣 正喜
- 準優勝 湯浅 政夫
- 第3位 新川 広毅

女三段以下

- 優勝 斎藤 詩乃
- 準優勝 五十嵐ももな
- 第3位 萩原明日香
- 女四段以上
- 優勝 長谷川絵鈴
- 準優勝 石田 祥子
- 第3位 吉村 静華

称号受有者男子

- 優勝 岡田 敏樹
- 準優勝 小出 則行
- 第3位 岩田 隆

称号受有者女子

- 優勝 高橋 輝子
- 準優勝 石井 幸子

選手権決勝大会

第3位 堀 史

H30/6/10

▼有段者男子の部

最高得点賞 山口 純

優勝 尾吹 将大

準優勝 平須賀 功

第3位 増尾 裕次

▼有段者女子の部

最高得点賞 長谷川絵鈴

優勝 長谷川絵鈴

準優勝 萩原明日香

第3位 斎藤 詩乃

▼称号者男子の部

最高得点賞 小沼 勝則

優勝 福地 平

準優勝 小堀 富男

第3位 小沼 勝則

▼称号者女子の部

最高得点賞 高橋 輝子

優勝 高橋 輝子

準優勝 萩野谷綾子

第3位 宮下 文子

▼関東選手権出場有段者

最高得点賞 平須賀 功

優勝 増尾 裕次

準優勝 山口 純

第3位 長谷川絵鈴

▼関東選手権出場称号者

最高得点賞 福地 平

優勝 小沼 勝則

準優勝 尚宏

都道府県対抗派遣

最高得点賞 尾吹 将大

優勝 高橋 輝子

準優勝 古俣 正喜

第3位 米山 良美

遠的大会

H30/7/16

▼男四段以下

優勝 平根 伸彦

準優勝 菊地 凛

第3位 木村孝太郎

▼男五段以上

優勝 大森 陽平

準優勝 境 貴洋

第3位 山口 純

▼女四段以下

優勝 斎藤 詩乃

準優勝 吉村 静華

第3位 小沼 瑠璃

▼女五段以上

優勝 紫村トク子

準優勝 柴原一利子

第3位 相原 利恵

▼派遣選手男子

優勝 大森 陽平

準優勝 境 貴洋

第3位 山口 純

▼派遣選手女子

優勝 柴原一利子

準優勝 相原 利恵

中野杯

H30/9/2

▼男子の部

優勝 田谷 俊陸

準優勝 古俣 正喜

第3位 山口 純

▼女子の部

優勝 相原 利恵

準優勝 長谷川絵鈴

第3位 遠藤菜亜知

▼称号受有者

優勝 萩野 淑江

準優勝 鈴木正太郎

第3位 福嶋 勝之

▼三段以下

H31/1/6

▼男子

射詰優勝 内山 吉文

優勝 安齊 廷玄

準優勝 内山 吉文

第3位 市毛 隆行

▼女子

優勝 綿引 美穂

準優勝 江橋 宏美

第3位 萩原明日香

▼四・五段

男子

射詰優勝 増尾 裕次

優勝 増尾 裕次

準優勝 野口 久

第3位 松村 匡登

▼女子

女子

優勝 斎藤 詩乃

準優勝 田中 理子

第3位 磯崎久美子

▼称号受有者

射詰優勝 橋本 真也

優勝 桑原 恒夫

準優勝 高松 清

第3位 小堀 富男

女子

優勝 古田土百合子

準優勝 高羽 京子

第3位 相原 利恵

茨城真教職員弓道連盟県内大会結果

春季大会

H30/4/28

▼男子の部

優勝 門井 了

準優勝 根本 栄治

第3位 宮本 和明

▼女子の部

優勝 増渕 由美

準優勝 大川都志子

第3位 今村 美里

▼総合の部

優勝 門井 了

秋季大会

H30/11/23

▼男子の部

優勝 塚本 重毅

準優勝 染谷 学

第3位 青柳 優

▼女子の部

優勝 相原 利恵

準優勝 大金喜代子

▼総合の部

優勝 塚本 重毅

高体連県内大会結果

春季大会 兼 関東大会県予選

H30/5/9 (男子)

H30/5/11 (女子)

▼男子団体

優勝 清真学園

準優勝 水戸桜ノ牧B

第3位 古河第二

▼女子団体

優勝 水戸桜ノ牧B

準優勝 水戸第二A

第3位 清真学園A

▼男子個人

優勝 石原 成(古二)

準優勝 北口真之惟(鹿島)

第3位 君山 翔(土二)

▼女子個人

優勝 青柳 志穂(水二)

準優勝 峯岸 実咲(水二)

第3位 渡邊 真由(清真)

高校総体予選 県民総体予選 全国総体予選 国体茨城大会

H30/6/13、15、18

▼男子団体

優勝 下妻第二

準優勝 清真学園
第3位 日立北

準優勝 田川 晟梧(清真)
第3位 島 歩夢(茨城)

準優勝 坂佐井朋佳(水二)
第3位 檜山 珠寿(水三)

第3位 阿見

準優勝 黒川 瑛文(阿見)
第3位 城ノ内

準優勝 太田

第3位 城ノ内

女子団体
優勝 清真学園
準優勝 水戸第二
第3位 水戸桜ノ牧

男子個人
優勝 鈴木 来実(清真)
準優勝 紙田梨華子(清真)
第3位 渡邊 真由(清真)

県高校弓道冬季大会
H31/1/26(男子)
H31/1/27(女子)

男子団体
優勝 石岡第一
準優勝 守谷
第3位 日立北

女子個人
優勝 日向寺美羽(清真)
準優勝 青木 桃花(猿島)
第3位 咲(水戸二)

男子個人
優勝 安藤 大翔(波崎)
準優勝 仲村 海音(土一)
第3位 山本 雅史(館二)

男子1年
優勝 島田 葵(境)
準優勝 中山 世羽(境)
第3位 川名 涼太(藤代)

女子団体
優勝 清真学園
準優勝 水戸第二
第3位 下妻第二

中野優勝旗大会
H30/7/30
男子団体
優勝 城ノ内C
準優勝 水戸二C
第3位 東海A、土浦三D

女子個人
優勝 清宮 小桃(城ノ内)
準優勝 山田 愛瑠(清真)
第3位 豊田 陽菜(水戸二)

女子個人
優勝 石井 真美(水二)
準優勝 野川 観鈴(藤代)
第3位 上野 結加(土三)

女子1年
優勝 加藤 栞(土二)
準優勝 橘川 美怜(竜一)
第3位 飯田くるみ(海二)

男子個人
優勝 千葉 大地(石一)
準優勝 川又 悠河(佐竹)
第3位 田川 晟梧(清真)

女子個人
優勝 林 奈緒(桜牧)
準優勝 郡司茉柚莉(筑波)
第3位 鈴木 来実(清真)

男子の部
優勝 根本 志菟(清真)
準優勝 山内 謙吾(水戸二)
第3位 宮本 陽翔(東海)

国体選手選考会

H30/6/21(1次)
H30/6/23(2次)

男子
優勝 村橋 遼悟(桜牧)
準優勝 重藤 瞬(佐和)
第3位 田川 晟梧(清真)
監督 辻 尚宏(江総)

女子
優勝 紙田梨華子(清真)
準優勝 渡邊 真由(清真)
第3位 川崎 百華(清真)
監督 佐久間和彰(清真)

男子の部
優勝 石塚 菜々(稲田)
準優勝 平田 琴音(東海南)
第3位 清宮 小桃(城ノ内)

女子の部
優勝 石塚 菜々(稲田)
準優勝 平田 琴音(東海南)
第3位 清宮 小桃(城ノ内)

男子
優勝 村橋 遼悟(桜牧)
準優勝 重藤 瞬(佐和)
第3位 田川 晟梧(清真)
監督 辻 尚宏(江総)

女子
優勝 紙田梨華子(清真)
準優勝 渡邊 真由(清真)
第3位 川崎 百華(清真)
監督 佐久間和彰(清真)

男子個人
優勝 日立北
準優勝 玉造工業
第3位 石岡第一
下妻第一

女子個人
優勝 日立北
準優勝 下妻第二
第3位 境

男子個人
優勝 川井 龍真(日北)
準優勝 市川 海人(妻二)
第3位 千葉 大地(石二)

女子
優勝 紙田梨華子(清真)
準優勝 渡邊 真由(清真)
第3位 川崎 百華(清真)
監督 佐久間和彰(清真)

女子団体
優勝 水戸第二
準優勝 下妻第二
第3位 境

男子個人
優勝 川井 龍真(日北)
準優勝 市川 海人(妻二)
第3位 千葉 大地(石二)

男子個人
優勝 川井 龍真(日北)
準優勝 市川 海人(妻二)
第3位 千葉 大地(石二)

男子個人
優勝 川井 龍真(日北)
準優勝 市川 海人(妻二)
第3位 千葉 大地(石二)

女子
優勝 紙田梨華子(清真)
準優勝 渡邊 真由(清真)
第3位 川崎 百華(清真)
監督 佐久間和彰(清真)

女子団体
優勝 水戸第二
準優勝 下妻第二
第3位 境

男子個人
優勝 川井 龍真(日北)
準優勝 市川 海人(妻二)
第3位 千葉 大地(石二)

男子個人
優勝 川井 龍真(日北)
準優勝 市川 海人(妻二)
第3位 千葉 大地(石二)

男子個人
優勝 川井 龍真(日北)
準優勝 市川 海人(妻二)
第3位 千葉 大地(石二)

中体連県内大会結果

男子個人
優勝 川井 龍真(日北)
準優勝 市川 海人(妻二)
第3位 千葉 大地(石二)

女子個人
優勝 紙田梨華子(清真)
準優勝 土浦一

男子個人
優勝 川井 龍真(日北)
準優勝 市川 海人(妻二)
第3位 千葉 大地(石二)

女子個人
優勝 紙田梨華子(清真)
準優勝 土浦一

男子個人
優勝 川井 龍真(日北)
準優勝 市川 海人(妻二)
第3位 千葉 大地(石二)

県個人選手権兼関東個人選手権予選会

H30/8/20(男子)
H30/8/21(女子)

男子個人
優勝 飯島 琉(牛栄)

女子個人
優勝 飯島 琉(牛栄)

男子個人
優勝 飯島 琉(牛栄)



平成30年度 中央審査会 合格者

No	取得	氏名	所属	取得日	審査場所
1	教士	今村好男	鳴和	H30. 5.31	H30推薦
2		大峰芳樹	取手	H30. 7. 6	【仙台】定期中央審査会
3	六段	千葉一茂	土浦亀城	H30. 7. 7	【仙台】定期中央審査会
4		染谷学	水戸桜川	H30.10. 8	【関東】臨時中央審査会
5		川上義高	湊		
6	錬士	桑原恒夫	水戸	H30. 5.19	【東海】臨時中央審査会
7		石山明宣	勝田	H30. 7. 8	【東北】錬士臨時中央審査会
8		柴山純子	湊	H30.10. 6	【関東】臨時中央審査会
9		相原利恵	稲敷市	H30.10. 7	
10		山口純	蒼藤会		
11		尾吹将大	茨城		
12		廣木栄則	湊	H30.12.22	【東京】特別臨時中央審査会
13		野口朋之	稲敷市		
14		門井寿通	水戸桜川		
15		山崎重紀	土浦亀城		
16		宮本和明	藤代		

平成30年度 連合審査会 合格者

No	取得	氏名	所属	取得日	審査場所
1	五段	西岡涼太	神栖	H30. 4.29	【山梨】関東地域連合審査
2		長谷川絵鈴	筑波北条	H30. 5.20	【神奈川】関東地域連合審査
3		海老原賢治	筑波医学		
4		赤澤繁久	北総	H30. 6.10	【群馬】関東地域連合審査
5		磯崎隆夫	殿山弓道		
6		久保田亮	日製(日立)	H30. 8. 5	【東京】関東地域連合審査
7		右近大道	牛久	H30.10. 8	【埼玉】関東地域連合審査
8		関口信夫	取手		
9		大金勉	友部		
10		野口久	土浦		
11		平根伸彦	原子力機構	H30.10.14	【茨城】関東地域連合審査
12		岡田智光	空自百里		
13		古俣正喜	神栖		
14		増尾裕次	稲敷市		
15		今井隆	古河		
16			渡邊昌美	取手	H31. 2.17

四十五年前の茨城国体

水戸支部 小野崎 紀男

昭和49(1974)年10月20日

24日迄茨城県の各地で第29回国民体育大会(水と緑のまごころ国体)が行われました。(弓道は、潮来町宮弓道場にて)その様子、結果などは新聞などで報道されましたが、茨城新聞にてまとめた『茨城国体グラフ』(昭和49年11月10日発行)より弓道競技のところをご紹介します。



【弓道競技】(大会役員)

競技委員長 横山 叡吉

副委員長 矢吹 三郎、篠塚 藤吉

審判長 土屋 吉太郎

審判委員 (範士など県外者)

総務委員長 平塚 治男

副委員長 梅原 良助

委員 河村 昌之、佐藤 恒雄、

竹下 孝雄、小谷 野保夫、

【開会式】(笠原運動公園陸上競技場)

昭和天皇のおことば、岩上知事の開会宣言。



磯静波、薄井秀夫、

猿田勘寿、赤坂光俊、

大川良、黒須保

本部記録員 佐藤勝男、高久忠、

長谷川富次、木村喜久雄、

辺田悦夫

送受信員 齋藤芳次、中村太

場内放送委員 青柳とし子、

田口 久子

掲示員 石崎 紘一、高橋昇、高安忠行、

河島常雄、高木忍夫、

西山俊弘

競技会場員 堀雄光、江畑光一、

後藤康甫、介川達、

篠原邦行、萩芳文、

小川満、木村義郎

近的競技主任 石井孝平

副主任 赤津徳

進行員 上田秀夫、藤川良治、

菊池景武、

福井清隆、小野崎紀男、

篠塚平一郎

召集員 山野恵通、飯田敏雄、

椎名賢、谷田泰章、

大川高吉

記録員 東山甲治、宮内省三、

真山策功、

関口宇一郎、北島瑞男、

篠塚晟

放送員 白鳥恵美子、平塚美世子

の前員 久松正美、荻原裕一、

花輪武、海江田圭吉、

植村昌信、飯島進、

古内緑、草野正衛、

高須義雄、笹本満

遠的競技主任 大村寿雄

副主任 山口省吾

進行員 元木豊、成島晟、岡野晴寿、

大久保秀隆、坂本行、

関口肇

召集員 高安正雄、高橋平吉、

篠塚一郎、柏崎日出夫、

根本豊治

記録員 八文字八男、宮本直方、

磯山賢一、藤塚義一、

池永庸一、荒原正典

放送員 天冨子、飯島ひで子

の前員 市毛俊明、白石直之、

武藤生三、宮部正夫、

宍戸隆夫、浅井敏久、

西野晋哉、塙雄一、兼平宏、

練習会場員 黒須勝次、松本實、

吉川英男、篠塚藤一、

方波見一治、草野秀夫

【茨城県の弓道チーム】

〔一般男子〕監督 柴田猛(那珂湊一高)

山村晋(自衛隊百里基地)

久保田清(渡辺兄弟商店)

関島勝(原研東海研究所)

〔一般女子〕監督 猪野嘉久(緑岡高)

佐藤朝香(日立久慈工場)

渡辺満知子(在家庭)

前沢和江(土浦短期大)

〔高校男子〕監督 早水俊雄(八郷高)

井坂誠(銚田一高)

野木正伸(那珂湊一高)

黒崎春三郎(銚田一高)

〔高校女子〕監督 小泉隆義(大宮高)

大橋幸美(龍ヶ崎二高)

安島典子(大宮高)

秋山照子(大宮高)

【結果】

〔一般男子〕 近的四位

〔一般女子〕 近的五位

遠的二位

〔高校男子〕 近的七位

〔高校女子〕 近的二位



遠的一位

○女子総合一位

○男女総合二位(一位は沖縄)



二位入賞

この冊子(80ページ、B4)は、公立の図書館にあるかも知れませんが、県立歴史館へ寄付する予定です。詳しくは、雑誌『弓道』(全日本弓道連盟)の昭和49年12月号(通巻295号)を参照。